

ミドリイシ類の一斉産卵(写真提供:さうすほいんとダイビングサービス, 代表 高嶺 守)

サンゴは動物です

沖縄の海といえば、すぐにサンゴを連想すると思いますが、その正体を知っていますか？

◆初夏の満月の夜に一斉に産卵します

沖縄の海では、初夏の満月の夜に多くの造礁サンゴが一斉に産卵します。それらの多くはミドリイシの仲間、生み出されたサンゴの卵と精子が海面で受精しプラナラと呼ばれる小さな幼生になります。プラナラは、2~3週間海を漂ったあと、適当な岩場にくっついてポリプに変態します。プラナラは海流に乗って長い距離を移動することができるので、サンゴは

サンゴはいろいろな方法で増える

ミドリイシの仲間



キクメイシの仲間



ハナヤサイサンゴの仲間



クサビライシの仲間



ワレクサビライシの仲間

◆クラゲと同じ刺胞動物の仲間です

サンゴは、枝を伸ばした木や硬い岩のようにもみえますが、イソギンチャクやクラゲと同じ刺胞動物の仲間です。サンゴの多くは、ポリプと呼ばれるサンゴの個体が集まった群体という形をして海底に固くくっついてます。サンゴには群体にならず一つのポリプで生活したり、海底にくっつかずに成長するクサビライシの仲間などもあります。ポリプ一つ一つには、口や胃、触手が備わっており、触手で海中を漂う小さな生物(プランクトン)を捕らえて食べています。サンゴの中でも、褐虫藻という植物と共生し、藻類が光合成で作り出す栄養分をもらいながら、石灰石の骨(骨格)を造るものは造礁サンゴと呼ばれ、サンゴ礁を造る中心的な役割を果たしています。造礁サンゴのほか、骨格をもたないソフトコーラルや体の中に褐虫藻をもたない深海に棲む宝石サンゴなどがあり、どれもサンゴの仲間です。

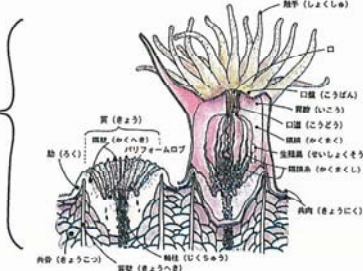
広い範囲に分布を広げることができるのです。造礁サンゴは、このように卵と精子が受精して増える(有性生殖)ほか、体の一部が折れて破片になり、その破片が岩場にくっついて成長することでも増える(無性生殖)など、それぞれの種類によって環境にあわせて様々な方法で分布を広げています。

サンゴの仲間



イシサンゴ類やアナサンゴモドキ類やクダサンゴ、アオサンゴが造礁サンゴと呼ばれています。

(画:西平守孝, サンゴのはなし, 沖縄県自然保護課)



ポリプのつくり(組織と骨格の断面図)